

夢を追う
みんなへエール

Q2

「コミュカ、が求められる時代。
平井知事流のコミュニケーションの取り方は。

米国にいた頃、政治に携わる人たちは人の心をつかむ演説術のようなことを結構真剣にやられていました。役所の言葉でしゃべっていただけ。予算、事業だけを説明してもなかなか伝わりません。むしろ夢を語ったり、何かクスッと笑ってもらえるようなことを盛り込むなど工夫して共感を得る必要があると思い、私自身も変わろうとしてきました。相手に納得してもらうこと、例えば梨やカニのアカデミックな知識を語って販売促進を進めようとしていたあるとき、「スタバはないけど、日本一の砂場がある」という私のダジャレが話題になり、バズったわけです。想定外の経済効果があり、鳥取砂丘への関心も高まりました。以来、私のチャレンジは「シャレンジ」になりました。

LINEとリふる
登録してね♪



平井 伸治

Shinji Hirai

鳥取県知事

PROFILE

東京都出身。東京大学法学部を卒業し、1984年に旧自治省(総務省)入り。99年7月から鳥取県総務部長、副知事を歴任。自治体国際化協会ニューヨーク事務所長などを務めた後、2007年4月の鳥取県知事選で初当選。現在5期目、64歳。

日頃のリフレッシュ方法は。Q3

最近はおっぱらトレッキングです。鳥取は自然が近いので、休みの日の夕方など空き時間を見つけて1~2時間、近所の山とかをぐるっと回って帰ってくる人が多いです。リフレッシュにもなりますし、何か大切なことを考えるときや頭の中を整理するときなどにも役立っています。

Q4 今、県政に高校生の意見を反映させる仕組みはありますか。

鳥取県は全国で一番高校生がアクセスできる県庁になっています。選挙権がない人も県政に参画できるようにつくった「パートナー県政会議」には、メンバーに高校生が入っています。「高校生議会」もありますし、数年前に組織した「若者活躍局」にも高校生が参加。政策提言してもらったり、あるいは街中のシャッターが閉まった通りに絵を描くイベントなど高校生が、いろんなことに取り組んでいます。地域には必ず応援してくれる人がいます。大人が同じような言動をすれば「何でそんなだろさげな…」と言われそうなことも、高校生がやるとみんな拍手してくれます。高校生の特権ですね。

Q5 現役の高校生に一言。

尾崎放哉が「峠路や時雨晴れたり馬の声」という句を詠んでいます。今まさに人生の分かれ道に差ししかかっているところ、ちょうど馬の元気な声が聞こえてくる峠の向こうにはどんな世界が広がっているのか、今高校生の皆さんはそんな気持ちではないかと思います。私は高校時代、「こんな勉強して何の役に立つのか」などと悩むことが多かったが、その全てを乗り越えられるし、未来につながっている道筋だということを皆さんにも分かっていたいただきたい。悩みながらも、未来に向かって挑戦していくことが大切だと思っています。

Q1

5期19年にわたり、
鳥取県政を担ってられました。
一つのことを長く続けるために
心がけていることは。

支えてくれる人を増やしていくことです。さまざまなアイデアや助言をくれて、なおかつ一緒に行動してくれる仲間をつくっていくことが大切です。

気持ち・スピリッツも大事。知事に就任した当初から「県庁にこもってはいけません。外の人とよく話をし、役に立つ県庁になるよう力を合わせて頑張ろう」と呼びかけてきました。市町村や各種団体との溝を埋めるため、県庁の「上から目線」を解消しようとずっとやってきたかいあって、今は同じ目線で語り合い、仕事ができるようになりました。こうした改革を起こすスピリッツを持ち続けたことで、今があります。

